詩の言葉と身体

松浦 寿輝
東京大学 表象文化論専攻

Abstract

言葉が身体的無意識との間に取り結んでいる、あるいは取り結びうる諸関係の位相を、詩的言語を例に挙げながら考察してみたい。コンピュータ処理しうる記号的・非触覚的な言語態の対極に、詩の言語の物質的・触覚的な言語態としての詩を置くことで、言葉の身体性が明らかになってくるだろう。ゆるやかさ、欠如と現前、触れること、出来事、声、物質、等々がここでのキーワードとなるはずである。

References

[1] 松浦 寿輝: 『口唇論――記号と官能のトポス』, 青土社 (1985, 新装版 1997)